

被服の色彩に関する研究 (第1報)

嗜好色と着用色について

河 本 知 子
 是 角 美 代 子
 西 条 セ ツ
 辻 啓 子
 丸 山 幸 江

I 緒 言

色彩嗜好に関する研究¹⁾はいくつかなされているが、その調査結果によると民族、性別、年齢、性格、職業、流行、地域、生活環境等が嗜好色を左右するといわれている。現在の衣生活においては被服材料も豊富に出廻り、色彩もカラフルになり、同時に自己の主義、主張も自由に表現できる社会情勢の中で、学生の被服における色彩嗜好の傾向は学生という立場に固執することなく、それを大胆に表現し、着用しているのではないかと考えられる。そこで今回、学生の色彩嗜好傾向、着用色、着用嗜好色について調査を行い、それ等の関係並びに生活環境、体型、顔型、肌の色、性格等といかなる関係にあるかを検討し、被服教育の一つのよりどころとすべく研究を行った。なお本報では嗜好色並びに着用色について検討した結果を報告する。

II 調査方法並びに調査内容

1. 対象：東海学園女子短期大学家政科学生（満18～19才）118名。被験者の家庭の職業、家族構成並びに現在の居住地は第1表に示した。その結果、居住地は大都市名古屋とその近郊の市町村であった。
2. 時期：昭和44年5月の晴天の日を選び、12時から14時までの間に実施した。
3. 試料：日本色彩社発行標準色紙98色を用いた。ミューズコットン無彩色（0-18-0）²⁾40cm×53cmの台紙に左右前後の色の影響のない間隔を予備実験の結果考慮に入れ、3cm×1.2cm³⁾の色紙をたて・よこ間隔2.5cmにとり、系統色順に配列し色相、明度、彩度番号を記入した。
4. 方法：調査前に被験者全員に調査方法並びに注意事項を説明し、調査用紙を配布して記入させた。色の選択についてはJ I S Z 8722に従い、北向きに窓を持つ窓辺に試料を置き、30cm離れた垂直方向から観察させ、5の調査内容3)、4)、5)の順に選択させた。観察時の平均照度は自然光平均500 Lx(東芝光電照度計 S P I - 1)、室温22±1°C、湿度68±5%である。

第1表 家庭の職業、家族構成並びに居住地

(%)

家庭の職業	現在の居住地 家族構成	大都市	中都市	小都市	農 村	山 村	漁 村	計
		サ ラ リ ー マ ン	6人以上	3.5	0	0	2.5	0
	5～4人	17.2	2.5	7.6	0	0	0	27.3
	3人以下	2.5	0	0	0	0	0	2.5
	計	23.2	2.5	7.6	2.5	0	0	35.8
会 社 役 員	6人以上	2.5	0	0.8	0	0	0	3.3
	5～4人	6.1	0.8	4.5	1.7	0	0	13.1
	3人以上	1.7	0	0.8	0	0	0	2.5
	計	10.3	0.8	6.1	1.7	0	0	18.9
商 業	6人以上	1.7	1.7	0.8	0	0	0	4.2
	5～4人	3.5	0	5.1	0	0	0	8.6
	3人以下	1.7	0	0	0	0	0	1.7
	計	6.9	1.7	5.9	0	0	0	14.5
工 業	6人以上	0.8	0.8	0.8	0	0	0	2.4
	5～4人	4.4	0	2.5	0	0	0	6.9
	3人以下	0	0	0	0	0	0	0
	計	5.2	0.8	3.3	0	0	0	9.3
農 業	6人以上	0	0	0.8	1.7	0	0	2.5
	5～4人	1.7	0	1.7	0.8	0	0	4.2
	3人以下	0	0	0.8	0	0	0	0.8
	計	1.7	0	3.3	2.5	0	0	7.5
サ ー ビ ス 業	6人以上	0.8	0	1.7	0	0	0	2.5
	5～4人	0	0	0.8	0	0	0	0.8
	3人以下	1.7	0.8	0.8	0	0	0	3.3
	計	2.5	0.8	3.3	0	0	0	6.6
そ の 他 ・ 無 職	6人以上	0	0	0.8	0	0	0	0.8
	5～4人	0	0	0.8	1.7	0	0	2.5
	3人以下	2.5	0.8	0.8	0	0	0	4.1
	計	2.5	0.8	2.4	1.7	0	0	7.4
合 計	6人以上	9.3	2.5	5.7	4.2	0	0	21.7
	5～4人	32.9	3.3	23.0	4.2	0	0	63.4
	3人以下	10.1	1.6	3.2	0	0	0	14.9
	計	52.3	7.4	31.9	8.4	0	0	100.0

注) 大都市は6大都市並びにそれに匹敵する都市
 中都市は県庁所在地並びにそれに匹敵する都市
 小都市はその他の市町村

5. 内容：調査内容の概略を記す。1)については被験者に記入させ、2), 3), 4)は各項について該当するもの1つを選択させた。

1) 年齢, 性別, 家庭の職業, 家族構成, 現在までの生育地, 被験者の主として生活している部屋の明るさ, 体格(身長, 体重, 胸囲)。

2) ①体型5種：(A)背低く太っている (B)背低くやせている (C)背高く太っている (D)背高くやせている
(E)中肉中背

②顔型6種：(A)四角型 (B)丸型 (C)逆三角形型 (D)長方形型 (E)卵型 (F)三角形型

③肌の色5種：日本人女性に最も多い色の中から次の5種を選んだ。

(A)3-18-3 (pale pink) (D)4-19-3 (pale orange)

(B)3-18-4 (salmon pink) (E)5-19-3 (pale orange)

(C)4-18-2 (pale brown)

④性格：(A)積極的 (B)普通 (C)消極的

3) 好きな色2色, 嫌いな色2色を選択させ, 好嫌度を次の7つの尺度で評定させた。

+3	+2	+1	0	-1	-2	-3
非常に好き	かなり好き	やや好き	好きでも嫌いでもない	やや嫌い	かなり嫌い	非常に嫌い

更に好きな色について30項目の形容詞の中から好きな色の理由を選ばせた。30項目の形容詞は1968年の「新聞」, 「服装雑誌」, 「衣生活」の中から60数語を選び, 似かよった意味をもつものは除外して第2表に示す30の形容詞に整理した。

4) 着用色1色を選択させ, その理由について次の10項目から1つを選択させた。

①好きな色であるから ②似合うと思うから ③無難(堅実)だと思うから

④個性を強調できるから ⑤自己の欠点をかくすから ⑥落ちついてみえるから

⑦流行しているから ⑧若々しいから ⑨清楚で学生らしいと思うから

⑩女性的であるから

5) 着用嗜好色については季節並びに服種をワンピースと限定して1色を選択させ, その理由については被験者に記述させた。ワンピースと限定したのは、今井の研究によると色彩嗜好は用途別による相違が大きいこと、更に被験者が配色についての配慮を少なくするためである。

6. 整理：1)色相については日本色彩研究所発行「色の標準」⁵⁾に基づき, 次の13の色相に分類した。

- | | | | |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| ①R (赤系) | ②O (橙系) | ③YO (黄橙系) | ④Y (黄色系) |
| ⑤YG (黄緑系) | ⑥G (緑系) | ⑦BG (青緑系) | ⑧GB (緑青系) |
| ⑨PB (紫青系) | ⑩BP (青紫系) | ⑪P (紫系) | ⑫RP (赤紫系) |
| ⑬AC (白, 灰, 黒) | | | |

2)色の好嫌度については次の2つの方法で検討した。

- ①最大尺度＝出現率の最も多い尺度
- ②平均尺度＝ $\frac{\text{尺度} \times \text{各尺度別における人数}}{\text{各色相別における人数}}$
- 3)顔型については(F)の三角形型は出現率が皆無であったので、他の5つの型で検討した。
- 4)肌の色については(A), (B)をまとめて pink 系, (C) brown 系, (D), (E)の orange 系の3種に整理し検討した。

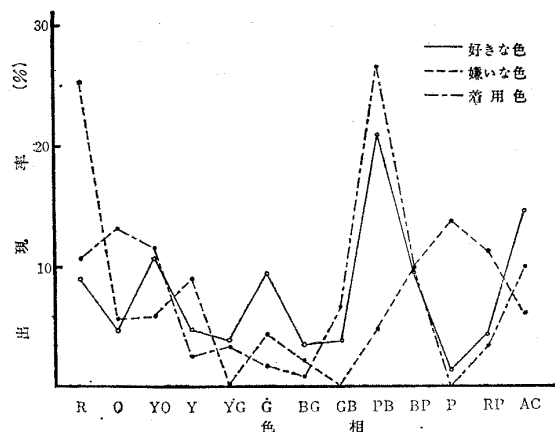
Ⅲ 調査結果並びに考察

1. 嗜好色

1) 色相

第1図から18才前後の女子学生の好む色相はPBが圧倒的に多く20%以上の出現率を示し、次いでAC約15%である。PB, ACを好む理由としては第2表に示すように「清潔な」「落ちついた」「さわやかな」という形容詞があげられている。色彩感覚も豊富になり、嗜好色の色相範囲も広く、個性的、女性的な美しさを求める傾向がみられるのではないかと推測していたが、全般的にみて清潔で、落ちついた学生らしさを表現できる色相を好む傾向がみられた。1958年の加藤等⁶⁾の調査では、高校生は白即ちACを、大学生は色相番号7即ちYを好きな色として選んでおり、中・高・大学生の年齢差なく白、青、青紫系統が好まれていると報告されている。本調査の結果も同様の傾向を示していることから、学生の色彩嗜好傾向には大きな変化はみられないという結果になった。また1967年の高倉⁸⁾の調査でもG, BG, BP, PBの寒色系の色相の嗜好度が高いことを報告している。好きな色として出現率の低かった色相はP, BG, GB, YG, Y, RP, Oがあげられ、それ等の色を好む理由としては「甘い」「可憐な」等の女性的な理由、あるいは「落ちついた」「さわやかな」等の形容詞があげられている。

第1図 好きな色、嫌いな色、着用色の色相別出現率



第2表 好きな色の選択の理由

(%)

形容詞	色相														計
	R	O	YO	Y	YG	G	BG	GB	PB	BP	P	RP	AC		
清潔な	0	0	0.4	0	0	0.4	0.4	0.9	3.4	2.6	0	0	8.1	16.2	
健康的な	0	0.9	0	0.9	0	0.4	0	0	1.3	0.4	0	0	0.4	4.3	
落ち着いた	0.9	0.9	3.4	0.9	1.7	1.7	1.3	0.9	1.3	2.6	0	0	1.3	16.9	
軽やかな	0	0	0	0	0	0.4	0	0	1.3	0	0	0	0	1.7	
渋い	0	0.9	0.4	0	0.4	0.4	0.4	0	0	0	0.4	0	0.4	3.3	
新鮮な	0	0	0.4	0	0.4	1.3	0	0.4	2.2	0	0	0	0.4	5.1	
清楚な	0	0	0.4	0	0	0	0.4	0	2.1	0.4	0	0	0.4	3.7	
地味な	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0	0	1.3	
甘い	0.4	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	2.1	
やわらかい	0.4	0.4	0	0	0.4	0.4	0	0.4	0	0.4	0	0	0	2.4	
さわやか	0.4	0	0	0.4	0.4	0	1.7	0.9	6.8	0	0	0.9	0.4	11.9	
あたたかい	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	1.8	
美しい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
明るい	0.4	0	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.7	
新しい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
華やかな	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0.4	0.8	
あざやかな	1.3	0.4	0.4	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.0	
淡い	0	0	0.4	0	0	0.4	0	0	0	0.4	0	0	0	1.2	
古典的な	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0.9	0	0.4	1.7	
若々しい	1.3	0	0.4	0.4	0	1.3	0	0	0.4	0	0	0	0.4	4.2	
可憐な	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	1.3	0	2.1	
神秘的な	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0.4	
印象的	0.4	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	
情熱的	1.3	0.4	0.4	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	2.9	
エキゾチック	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0.8	
ロマンチック	0	0	0	0.4	0	0.9	0	0	0.4	0	0	0.9	0	2.6	
強烈な	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	
魅力的	0	0	0.4	0	0	0.4	0	0	0.4	0	0	0	0	1.2	
やさしい	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	1.3	
上品な	0	0.4	0.4	0	0.4	0	0.4	0.9	0	1.3	0	0	0.4	4.2	
計	9.0	4.3	10.3	4.7	3.7	8.8	4.6	4.4	20.0	9.8	1.3	4.8	14.3	100	

嫌いな色として出現率の高い色相はRで25%をしめ、次いでP, RP, BPの紫系統が多い。Rは情熱的で個性の強い色相だけに抵抗感を覚える人も多いといえよう。また紫系統の衣服は我国では古くから高貴な色とされてきたが、現代の活動的な生活感覚には適合しにくく、しかも中年色としてのイメージがあるだけに、若い学生には受け止めにくい色相なのではないかと考えられる。

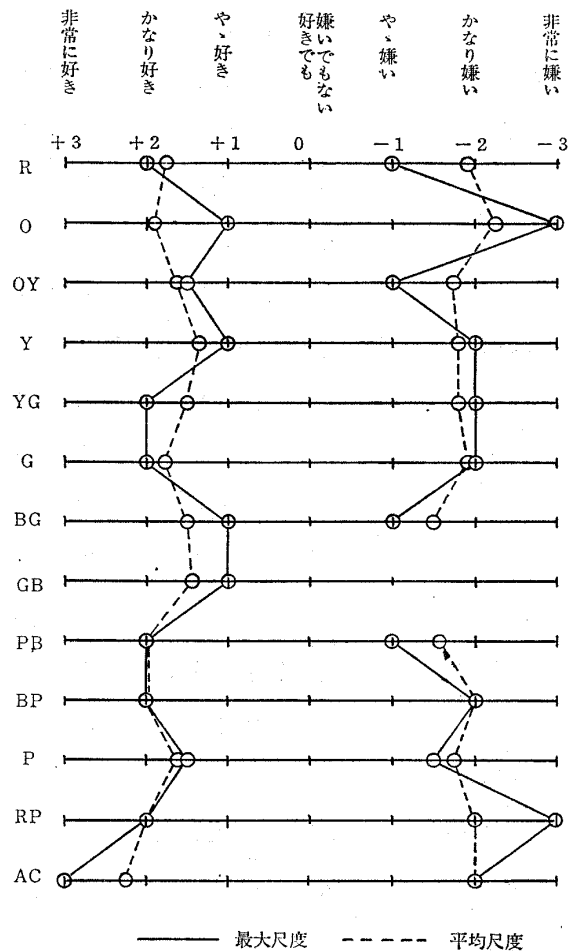
2) 色相別にみた好嫌度

高倉⁸⁾によると好嫌感に効果を持つ因子は明度, 彩度よりも色相であると報告している。そこで各色相別の好嫌度を第2図により検討してみた。最初に各色相別に好嫌度の出現率の多かった最大尺度についてみると、嗜好度の高い+3を示した色相はACのみで、好きな色として出現率の高かったPBは+2程度である。ACを除く他の色相の嗜好度は+2, +1と低く、これは前述した好きな色の選択理由として個人的な形容詞が選択されていなかったこととも関連があると思われる。嫌悪度では嫌いな色として出現率の比較的低かったO, RPが-3という高い嫌悪度を示している。しかし嫌いな色として出現率の高かったRは-1, Pは-2から-1の間と低い嫌悪度である。これはR, Pは嫌いな色ではあるが、高い嫌悪度を持つ者は少ないということがいえる。

次に平均尺度についてみると大体最大尺度と同様の傾向を示している。しかし嗜好度が最大尺度では+1であったOは+2を示し、嗜好色率は低いが嗜好度+3を選択している者が多いことを示している。またACは最大尺度は+3であったが平均尺度は+2で、嗜好色率も高く嗜好度の範囲も広いことを示している。嫌いな色ではRが最大尺度-1から平均尺度-2へと、嫌悪度の高いものを選択した者が多くなっていることと、O, RPの最大尺度-3の高い嫌悪度を示した色相は平均尺度では-2を示していることが注目される。

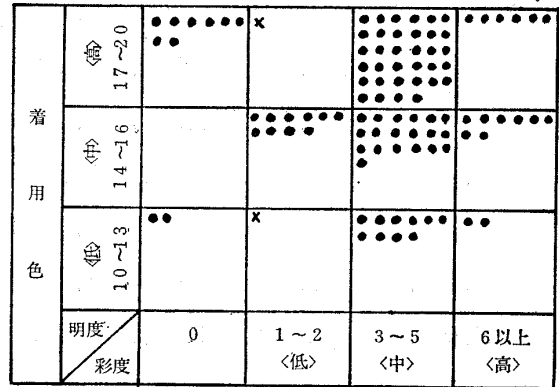
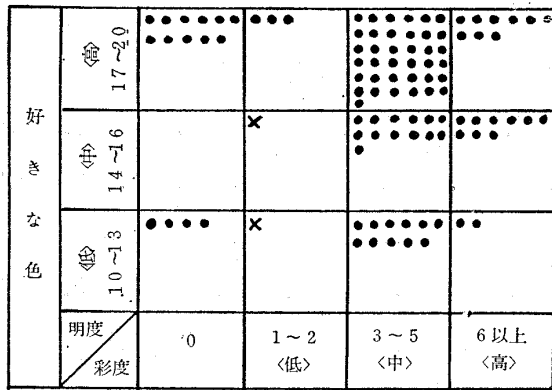
以上述べてきたように色の好嫌度についてはR, O, YO, Yを除く他の色相は最大尺度, 平均尺度共に嗜好度の高い色相は嫌悪度も高く、嗜好度の低い色相は嫌悪度も低いという傾向がみられ、特にYG, G, BP, R, P, ACにこの傾向が強かった。換言すれば、それ等の色相は好き嫌いを強く感じさせる色相であるといえよう。

第2図 嗜好色の色相別好嫌度

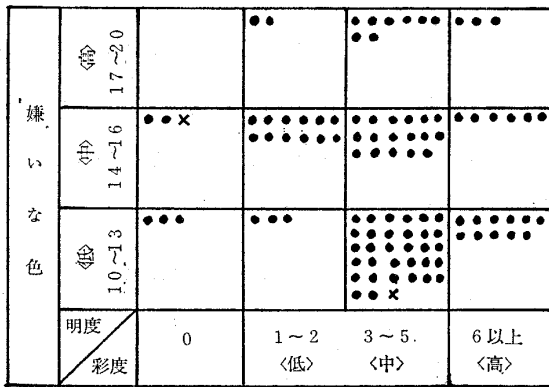


3) 明度, 彩度

第3図 好きな色, 嫌いな色, 着用色の明度, 彩度



●印 1% ×印 0.5%



好きな色の明度, 彩度は第3図に示すように明度17~20, 彩度3~5, 即ち高明度, 中彩度に出現率が高く37%をしめ, 次いで無彩色の高明度に多い。しかし明度10~13の低明度, 彩度1~2の低彩度の出現率は低い。嫌いな色では明度10~13, 彩度3~5, 即ち低明度, 中彩度の出現率が高く, 次いで中明度, 中彩度に高い。このことから色の好嫌感は色相に加えて彩度よりも明度のほうが大きな影響を与える因子であるといえる。

4) 職業, 体型, 顔型, 肌の色, 性格と嗜好色の関係

①職業

第3表 職業別による好きな色, 嫌いな色, 着用色の色相別出現率

職業 項目 色相 ↓	職業別による好きな色, 嫌いな色, 着用色の色相別出現率 (%)																				
	サラリーマン			会社役員			商業			工業			農業			サービス業			その他・無職		
	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色
R	1.3	9.6	2.2	1.7	3.7	5.4	3.0	2.4	0.9	0.4	2.7	0.8	0.8	2.2	0.8	0.4	2.1	0	0.8	0.8	2.0
O	0.8	1.4	3.6	0.4	1.6	3.2	0.8	0.9	0.9	0.8	0.9	1.6	0.4	0	2.4	0.4	0.4	0	0.8	0.4	1.0
YO	2.5	1.4	2.9	2.1	2.1	1.1	1.7	1.4	1.8	0.4	0.9	0	1.3	0.4	2.4	0	0	0	1.8	0	0.9
Y	1.3	4.6	2.2	1.7	3.7	0	0.4	0.5	0	0.4	0	0	0	0.7	0	0.4	0	0	0.4	0.4	0

YG	0.8	0	0.7	0.8	1.6	0	0.4	0.9	0	0	0.4	0.8	1.3	0	0	0	0	0.7	0	0	0.9
G	3.8	1.1	0.7	1.7	0.5	1.1	0.8	0.5	0	0.8	0	0	0.4	1.1	0	0.8	0.4	0	0.4	0.4	0
BG	2.1	0.7	0	1.4	0.5	1.1	0	0.5	0	0.4	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0.4	0
GB	1.3	0	0.7	0.4	0	3.2	0.4	0	0.9	0.8	0	0.8	0	0	0	0.4	0	1.5	0	0	0
PB	6.8	1.4	7.3	8.4	1.0	6.3	4.2	0.9	6.2	2.2	0.4	3.2	1.3	0	2.4	0.8	0	0.7	0.8	1.1	0.9
BP	3.4	2.8	3.6	0.4	2.1	1.1	1.3	0.5	0.9	0.8	1.7	0	0.8	0.4	0	1.4	1.3	2.3	0.4	0.4	0.9
P	0.8	2.6	2.2	0.4	2.1	0	0	3.0	0	0	0.4	0	0	1.7	0	0	2.1	0	0	1.5	0
RP	1.7	2.8	2.2	0.8	3.1	0	0	1.4	0.9	0.4	2.2	0	0.4	0.4	0	0.4	0.4	0	0.4	0.8	0
AC	4.6	2.8	2.9	3.4	1.6	1.1	1.3	1.4	1.8	2.2	0	2.4	1.3	0.4	0	1.7	0	1.5	0.8	0.4	0
計	31.2	31.2	31.2	23.6	23.6	23.6	14.3	14.3	14.3	9.6	9.6	9.6	8.0	8.0	8.0	6.7	6.7	6.7	6.6	6.6	6.6

好きな色は各職業共PBの出現率が高く、次いでACで、とりわけ職業別による特徴はみられないが、商業ではPB, R, 無職, その他ではYOの出現率が高いのが目立つ。嫌いな色では各職業共R, P, RP, BPと紫系統の出現率が高く、好きな色同様職業別の特徴はみられなかった。但しサラリーマン, 会社役員にYの出現率が高いのが印象的である。

第4表 体型別による好きな色, 嫌いな色, 着用色の色相別出現率 (%)

色相	項目	(A)型 背低く 太っている			(B)型 背低く やせている			(C)型 背高く 太っている			(D)型 背高く やせている			(E)型 中肉中背		
		好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色
		R	3.5	5.3	2.3	0	0.8	1.6	2.5	3.5	2.9	0	2.8	0.9	5.7	14.6
O	1.8	0	1.5	0	0.8	1.6	0	1.0	1.5	0	0.8	1.7	1.7	2.5	5.7	
YO	0.9	0.9	0.8	0.9	0	1.6	0.9	0	2.2	0.9	0.8	0.9	6.5	0.9	6.5	
Y	1.7	2.5	0.8	0	0	0	0	0.9	0	0.9	0.8	0.9	0	2.5	0.9	
YG	0.9	0.9	0.8	1.8	0	0	0	0	0.8	0.9	0	0	1.7	1.8	1.6	
G	0	0.9	0	0	0.8	0	0.9	0.9	0	1.7	1.4	0.9	3.2	2.5	0.8	
BG	0	1.0	0.8	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0	2.5	0.9	0.8	
GB	0	0	0.8	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0.9	1.7	0	5.7	
PB	6.2	0.9	6.1	3.4	0	0.8	2.5	0	2.9	3.3	0	4.2	12.4	1.7	11.4	
BP	0	2.5	2.3	0.9	0	0.8	1.7	0.9	0.8	0.9	0.8	0	5.8	4.2	7.3	
P	0	1.8	0	0	1.6	0	0	2.8	0	0	0.8	0	1.7	9.5	0	
RP	0	1.0	0	0	3.9	0	0	0.9	0.8	0.9	1.4	0	2.5	4.2	2.4	
AC	2.7	0	1.5	0.9	0.9	2.4	4.2	1.8	0.8	0	0.8	0	5.0	5.1	4.9	
計	17.7	17.7	17.7	8.8	8.8	8.8	12.7	12.7	12.7	10.4	10.4	10.4	50.4	50.4	50.4	

②体型

好きな色については各体型共にPBの出現率が高く、次いで(A)型ではR, (B)型ではYG, (C)型ではAC, (D)型ではG, (E)型ではYOの出現率が高い。即ちやせ型ではG系統を、太っている体型ではR, ACを、中肉中背ではYOを好む傾向がみられた。嫌いな色では各体型共にR, 次いで(A)型ではY, BP, (D)型ではG, RPの出現率が高く、背低く太っている体型では意識的なのかY系統の膨張色は好まない傾向がみられた。(D)型では好きな色としてGを選んだ者も多いが、嫌いな色としてもGが多かった。

③顔型

第5表 顔型別による好きな色, 嫌いな色, 着用色の色相別出現率

(%)

顔型 項目 色相	(A)型 四角型			(B)型 丸型			(C)型 逆三角形型			(D)型 長方形型			(E)型 卵型		
	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色
R	0	2.4	0	4.3	7.0	4.1	0	0.9	1.0	1.8	5.8	0.9	6.0	9.9	4.9
O	0	0	0	2.5	0	3.2	0	0	0	0	0.9	1.7	1.7	4.2	7.3
YO	0	0	1.0	5.1	1.7	4.9	0.9	0.9	1.0	1.8	0	0.9	2.5	0.9	3.3
Y	0	0	0	2.5	1.7	0	0	0	0	0	0.9	0	0.9	4.9	2.4
YG	0	0	1.0	1.7	0.9	1.6	0	0.9	0	1.0	0	0.9	2.5	0.9	0
G	0.8	0	0	2.5	0.9	0.9	0	0.9	0	0	0.9	0	2.5	4.2	0.9
BG	0.7	0	0	0	1.7	0.9	0	0	0	0	0	0	0.9	0	0
GB	0	0	1.0	1.7	0	3.3	0	0	1.0	1.0	0	1.7	0	0	0.9
PB	0.8	0	1.1	6.8	0.9	9.9	2.4	0	1.8	6.4	0.9	5.1	12.2	0	8.9
BP	0.8	0.9	1.0	2.5	5.2	0.9	0.9	0	1.0	0	0.9	1.7	4.4	2.4	3.9
P	0	0.9	0	0	7.8	0	0	2.3	0	0	0.9	0	1.7	4.2	0
PR	0	0	0	0	2.6	0	0.9	0.9	0	0	1.7	0	2.5	5.5	3.9
AC	2.0	0.9	0	3.4	2.6	3.3	1.7	0	1.0	1.8	0.9	0.9	3.5	4.2	4.9
計	5.1	5.1	5.1	33.0	33.0	33.0	6.8	6.8	6.8	13.8	13.8	13.8	41.3	41.3	41.3

各型共に好きな色, 嫌いな色として出現率の高かった色相(第1図参照)の出現率がやはり高い。ただ(B)の丸型にYOを好む傾向が特異である。

④肌の色

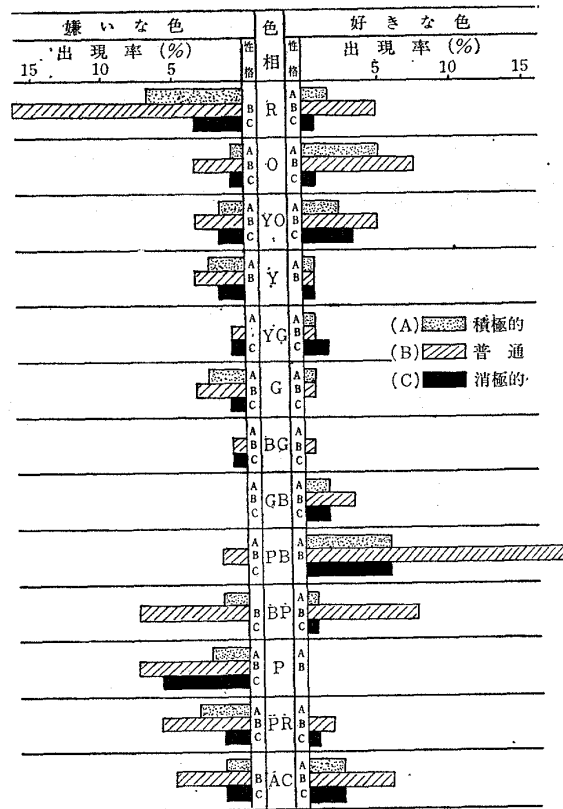
各肌の色共PB, BPの出現率が高く, 次いでpink系ではAC, YO, orange系ではG, ACが高い。

⑤性格

第6表 肌の色別による好きな色，嫌いな色，着用色の色相別出現率 (%)

肌の色 項目 色相	pink系			brown系			orange系		
	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色	好きな色	嫌いな色	着用色
R	3.8	13.5	3.9	0	1.7	0.6	5.3	5.5	10.9
O	2.9	2.5	6.4	0	0	0.6	1.7	5.3	2.5
YO	4.6	0.9	5.7	1.4	0.9	0	3.8	9.1	1.8
Y	1.3	3.4	0	0.5	0.9	0	3.1	1.8	3.4
YG	0.9	0.9	0	0	0.9	0	3.0	2.4	0.9
G	2.1	1.8	0.8	0	0	0	6.8	0.9	5.0
BG	1.3	0	0	0.5	0	0.6	2.4	0.6	1.8
GB	1.7	0	2.6	0.5	0	0	1.7	4.0	0
PB	7.6	0	7.4	2.2	0	4.9	10.6	12.8	1.7
BP	5.1	2.5	5.7	0.5	0.9	0	3.8	5.3	5.7
P	0.4	8.5	0	0.5	0.9	0	0.4	0	6.7
RP	0.9	2.5	1.6	0.5	0.9	0	3.1	2.0	7.5
AC	6.5	2.6	5.0	1.4	0.9	1.3	7.2	3.2	5.0
計	39.1	39.1	39.1	8.0	8.0	8.0	52.9	52.9	52.9

第4図 性格別による嗜好色の色相別出現率



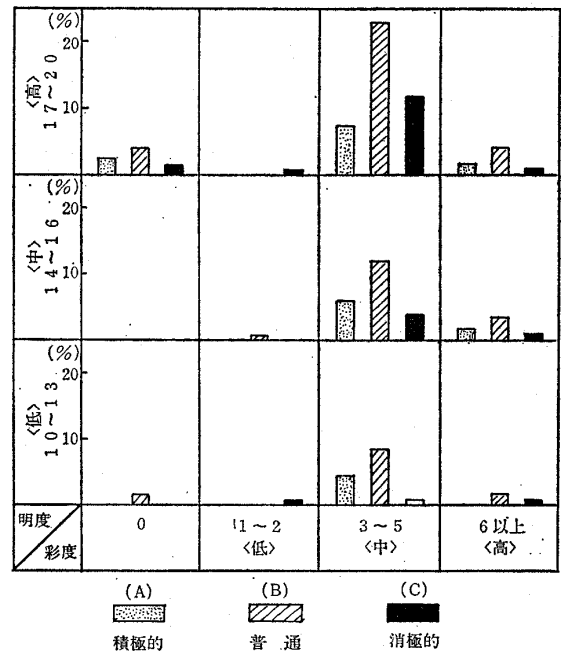
ここでは3つの概括的な性格分類による嗜好傾向を検討した。被験者の3つの性格分類による割合は(B)の普通の性格が56.3%，(A)の積極的な性格，(C)の消極的な性格はそれぞれ21.9%，21.8%であった。

好きな色についてみると第4図から，(A)の積極的な性格ではPB，O，次いでOY，ACの出現率が高い。特に派手な印象を与えるOの出現率の高いのが目立ち，逆にYG，BGの落ちついた，渋いG系統の出現率は低い。(B)の性格ではPBが17.8%と高率を示し，次いでO，BP，R，ACが高い。しかし(A)の性格同様G系の出現率は低い。この性格は被験者の約60%をしめている関係もあると思われるが，好きな色の色相範囲が広い。(C)の消極的な性格では(A)，(B)の性格同様PBの出現率が高く，次いでOY，BGが高い。この性格ではOYの出現率の高いのが目立つが，OYの中でも彩度2～4の渋い，落ちついた色が好まれ，その理由として「落ちついた」という形容詞が選ばれていることからもうなづけるものがある。

嫌いな色については各性格共にR及びP系統の出現率が高く，性格別による特徴はあまりみられない。

次に色彩嗜好傾向は色相は勿論であるが、明度、彩度についても性格別による差がみられるのではないかと第5図により検討してみた。各性格共に前述した高明度、高彩度の出現率が高く、性格別による差はあまりみられない。ただ(C)の性格に高明度、中彩度の出現率が高いことと、彩度1~2の低彩度の出現率がわずかづつみられる。この結果から高倉の報告にもあるように色に対する好嫌感⁸⁾は性格の別なく、明度、彩度よりも色相に左右されることが本調査でも明らかにされた。

第5図 性格別による嗜好色の明度、彩度



2. 着用色

1) 色相

着用色として出現率の高い色相は第1図及び第8表からPBが圧倒的に多く26.5%を示し、次いでO13.2%，YO11.6%，R10.7%，AC9.9%となっている。PBが多く着用されているのは、嗜好色の項でも述べたように清潔、清楚な学生らしさを表現できる色相であるために好まれて着用されていると考えられる。次いでO，YOの出現率が高くなっているが，O，OY共に派手な色ではなく，明度，彩度の低い茶

第7表 着用色の色相別による着用理由

理由	色相														計
	R	O	YO	Y	YG	G	BG	GB	PB	BP	P	RP	AC		
好きな色であるから	3.3	3.3	4.2	0	1.7	1.7	0	0.8	9.1	0.8	0	0.8	0	25.7	
似合うと思うから	0.8	3.3	0	0.8	0	0	0	0.8	4.2	3.3	0	1.7	1.7	16.6	
無難(堅実)だと思うから	0	3.3	2.5	0	0	0	0	1.7	4.2	0	0	0	0.8	12.5	
個性を強調できるから	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0.8	
自分の欠点をかくすから	0	0.8	1.7	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0	0	3.3	
落ち着いてみえるから	0	1.7	3.3	0	0.8	0	0.8	0.8	1.7	0.8	0	0	0.8	10.7	
流行しているから	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	
若々しいから	5.0	0	0	0.8	0.8	0	0	0	0.8	0.8	0	0	0	8.2	
清楚で学生らしいと思うから	0.8	0	0	0.8	0	0	0	2.5	6.6	3.3	0	0.8	5.8	20.6	
女性的であるから	0	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	
上品にみえるから	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	10.7	13.2	11.7	2.4	3.3	1.7	0.8	6.6	26.6	9.8	0	3.3	9.9	100.0	

第8表 嗜好色と着用嗜好色，着用色の相関性

項目 \ 色相	R	O	YO	Y	YG	G	BG	GB	PB	BP	P	RP	AC	r
嗜好色	9.0	4.7	10.7	4.7	3.8	9.4	3.4	3.8	20.9	9.4	1.3	4.3	14.5	
着用嗜好色	8.5	10.4	9.7	8.1	4.3	9.5	3.9	3.0	12.5	4.2	0	8.6	17.1	**0.7294
着用色	10.7	13.2	11.6	2.5	3.3	1.7	0.8	6.6	26.5	9.9	0	3.3	9.9	**0.8179

注) 各色相に於ける出現率(%)を示す。

** 危険率1%で相関性のみられたもの。

系統の色が選ばれている。これは第7表に色相別による着用理由を示したが、この表からも分かるように「落ちついてみえる」「堅実，無難である」という理由から着用されていることからもうなづける。着用色率の低い色相としてはBG，Gで，特にPは皆無である。嗜好色率の低いPは着用色率でも0%である。

次に嗜好色と着用色の関係について検討してみた。第8表は嗜好色と着用色の相関性を示したものであるが，嗜好色と着用色の間には危険率1% ($r=0.8179$) で相関性が認められた。嗜好色率の高いPB，R，YO，BP，ACの各色相は着用色率も高い。しかし比較的嗜好色率の高いGの着用色率は低く，加藤等⁶⁾の研究にも同様な傾向が報告されている。加藤等の研究ではGの嗜好色率は高いが，着用色率，着用嗜好色率は共に低いと報告されているが，本研究では嗜好色率，着用嗜好色率は高く，着用色率は低い。逆に嗜好色率の低いOは約2倍の高い着用色率を示し，嗜好色と着用色とは必ずしも一致しない現れがここにみられた。以上のように嗜好色と着用色の間には高い相関性がみられたわけであるが，これは第7表の着用理由からも明らかにできる。即ち着用理由として一番高い出現率を示した理由は「好きな色であるから」が25.7%で嗜好率の高い色を着用している。

着用色の着用理由を検討してみると第1位は先にあげた「好きな色であるから着用する」という理由で，次いで「清楚で学生らしいから」が20.6%，「似合うと思うから」が16.6%の高率を示し，他に「落ちついてみえる」「無難だと思ふ」という理由が多くあげられている。この結果から学生としての立場，あるいは学生らしさを表現できる色を着用色として選んでいる傾向にあり，逆に「流行色であるから」がわずか0.8%，「女性的であるから」「上品にみえるから」という学生の立場から離れているような着用理由は少い。着用色率の出現傾向と着用理由を総合して考えられることは，本研究の調査対象が大学1年生で，しかも調査時期が5月であったために，高等学校を卒業して制服から自由に好みの服装ができる転換期でもあり，色彩に対する感覚あるいは表現しようとする力が養われておらず，清潔で落ちつきのある学生らしさを表現したいという学生達の気持のみが強くこの調査の結果となって表われたのではないかと考えられる。

2) 明度，彩度

着用色の明度，彩度は第3図から明らかなように高明度，中彩度が34%をしめ，次いで中明度，中彩度が19%とほぼ嗜好色と同じ傾向を示している。嗜好色に比べて中明度，中彩度及び中明度，低彩度の出現率が高くなっているが，これは色相の項でも述べたように明度，彩度の低い渋い，落ちついた色が着用されているためといえよう。

3) 職業，体型，顔型，肌の色，性格と着用色の関係

①職業

第3表からサラリーマン，会社役員，商業，工業ではPBがやはり高い出現率を示し，職業別即ち生活環境の違いによる差はあまりみられない。ただ農業にO，YOの出現率が高く，しかも色相の選択範囲が狭いことが目立つ。これは生活環境からくる潜在的なものがこの調査結果に表われたのではないだろうか。全体に職業別による差がみられなかったことは，調査対象が短大生という特定の階層であったことと，生活程度が比較的似かよっていることによるものではないかと考えられる。

②体型

第4表に示すように被験者の5つの体型分類による割合は(E)の中肉中背が50.4%で約半数をしめ，次いで(A)の背低く太っている体型が17.7%である。

体型別による着用色率の出現傾向をみると，被験者の約半数をしめる(E)型では着用色の選択範囲は広く，各色相にわたっているが，他の体型では選択範囲は狭い。色相別にみると着用色率の高いPBは(E)型，(A)型，(D)型に多く，(B)型のいわゆる小柄な体型ではAC，R，O，YOの出現率が高く，逆にPBは低い。これは自己の存在をはっきりさせる進出，膨張色を着用している傾向とみられる。(D)型の大柄な体型ではPBに次いでOの出現率が高い。全体を通していえることは体型を考慮した上で着用色を選択しているとはいえず，「好きな色であるから」「学生らしい」「落ちついてみえる」といった理由から着用色を選択している傾向が強い。

③顔型

第5表から被験者の5つの顔型分類による割合は(E)の卵型が41.3%，(B)の丸型が33%で約75%をしめ，(A)の四角型，(C)の逆三角形型は少い。

顔型別による着用色の出現傾向をみると(E)型ではPBが最も多く，次いでO，R，ACの出現率が高い。(B)型でもPB，YO，R，O，OY，GB，ACの出現率が高く，顔型別による特徴はみられない。これは顔型というものは体型の一部として考えられ，顔型が着用色を選択する基準になるのではなく，むしろ衿の形，衿のあき，上半身のデザイン線を決める上に大きな影響を持つ因子であると考えられる。

④肌の色

第6表に示すようにpink系39.1%，brown系8.0%，orange系52.9%で，pink系とorange系に大別することができる。最も多いorange系についてみるとPB，YO，R，BP，O，pink系ではPB，O，YO，BPの出現率が高く，肌の色別による着用色の差はみ

られない。体型の項でも述べたように肌の色を考慮した上で着用色は選択されるのではなく、他の理由によって選択されているためといえよう。

⑤性格

第6図に性格別による着用色の色相別出現率を示したが、(A)の積極的な性格ではO, YO, PB, ACの出現率が高く、第4図に示した嗜好色の出現傾向と非常によく似ている。積極的な性格だけに嗜好色に対する愛着心の強さが出ているためといえよう。(B)の普通の性格ではR, O, PB, BPが7~8%前後の高い出現率を示し、次いでAC, GBが高い。この性格は(A)の性格とは異り、嗜好色率の高かったPBは着用色率は低く、各色相の出現率が平均化している。(C)の消極的な性格では(A)の性格同様嗜好色率の高いOY, PB, ACの出現率が高い。(A)の性格とは逆に嗜好色に対する愛着心というよりは、むしろ自分の好みの色から脱し切れない結果が表われたものと考えられる。

IV 総括

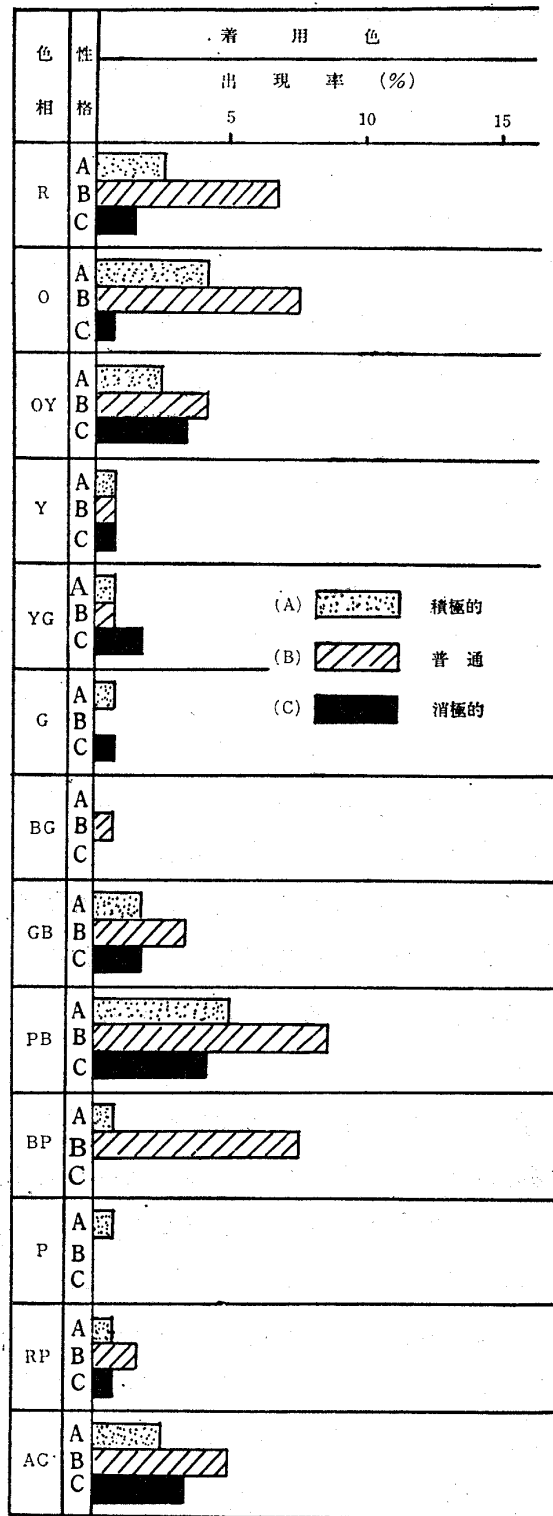
短大生の被服の色彩嗜好について嗜好色、着用色、着用嗜好色について調査を行い、被服教育の一助にすべく考察を試みた結果次のようにまとめることができる。

1. 嗜好色

1) 好きな色としてはPB, AC, 嫌いな色としてはR, P系統の色相の出現率が高い。明度、彩度については高明度で中彩度に出現率が高い。

2) 好きな色の選択理由としては「清潔な」「落ちついた」「さわやかな」等の形容詞があげられ、清潔な、学生らしい落ちつきのある色相が好まれている。

第6図 性格別による着用色の色相別出現率



3) 色の好嫌度については最大尺度+3の嗜好度を示した色相はAC, -3の嫌悪度を示した色相はO, RPであった。また最大尺度, 平均尺度共に嗜好度の高い色相は嫌悪度も高く, 嗜好度の低い色相は嫌悪度も低いという傾向がみられた。

4) 職業, 体型, 顔型, 肌の色別による嗜好色の特徴はみられなかったが, 性格別ではその違いがみられた。

2. 着用色

1) 色相ではPBが高率を示し, 次いでO, YO, R, ACの出現率が高い。明度, 彩度については高明度で中彩度に出現率が最も高く, 次に中明度で中彩度に高い。

2) 着用理由については「好きな色であるから」が最も多く, 嗜好色と着用色の間には相関性がみられた。次いで「清楚で学生らしい」「落ちついてみえる」「無難である」等の理由が多く, 学生の着用色の選択傾向が明らかにされた。

3) 職業, 体型, 顔型, 肌の色, 性格別による着用色率の出現傾向には差があまりみられず, 個性を考慮した上で着用色を選択している傾向は少ない。

最後に本調査に当り御協力下さいました本学家政科学生に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 例えば今井 家政誌 16 292 (1965)
- 2) 戸塚 家政誌 15 92 (1964)
- 3) 高倉 家政誌 19 213 (1968)
- 4) 今井 東京家政学院大学紀要 4 39 (1964)
- 5) 日本色彩研究所 色の標準 (1954)
- 6) 加藤他 家政誌 11 189 (1960)